16　　弓の名人　 　　　　　　　　　　　　　　文法　助詞②　接続助詞①

上六大夫といふ弓の上手聞きて、Ａ｢この辺にたうａやは見候ふ。見よ」と言ひければ、下人立ち出でて見て、Ｂ｢ただ今、河より北の田には見候ふ」と言ふを聞きて、すなはち弓矢を取りて出でたるｂに、たう立ちて南へ飛びけるを、上六、矢をはげて、さうなくも射ず。Ｃ｢いづれかはこがれたる」と言ひければ、Ｄ｢しりに飛ぶをこがれたる」と言ふを聞きて、なほも急がず。はるかに遠くなりて、河の南の岸の上飛ぶほどになりアにける時、よく引きて放ちたるに、あやまたず射落としてけり。むつる感興のあまり、不審をいたして問ひけるは、Ｅ｢など近かりイつるをば射ざりつるぞ。はるかに遠くなしｃては射るぞ。心得ず」と尋ねければ、Ｆ｢その事候ふ。近かりつるｄを射落としたらば、河に落ちて、その羽濡れ侍りなウむ。向かひの地につきて射落としたればこそ、かく羽は損ぜエね｣とぞ言ひける。

心にまかせたるほど、まことにゆゆしかりける上手なり。

【本文チェック】

①　ア～エの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　　・　　　　　形〕　イ〔　　　　　　・　　　　　形〕

ウ〔　　　　　　・　　　　　形〕　エ〔　　　　　　・　　　　　形〕

②□ａ～ｄの助詞のうち、格助詞を一つ選び、記号に〇をつけなさい。

ａ・ｂ・ｃ・ｄ

③発言Ａ～Ｆのうち、上六大夫のものをすべて選び、記号に〇をつけなさい。

Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　なほ〔４〕　 ①（　　　　　）

②もっと

２　かく〔９〕 　（　　　　　　　）

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　さればとて、左右なく自害せんもなし。（曽我物語）

ア　時期も選ばず　　イ　知らせもなく

ウ　この上もなく　　エ　ためらわず

（　　　）

２　などかくましきものにしも思すべき。（源氏物語）

ア　なんとしても　　イ　どうして～か、いや～ない

ウ　なんと～か　　　エ　どれほど～か、いや～ない

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の意味用法として適当なものを、後から選べ。

１　今朝越え来ればほととぎすはるかに今ぞ鳴くなる（古今集）

（　　　）

２　悪人のまねとて人を殺さば、悪人なり。（徒然草）

（　　　）

３　家にあれ①ばに盛るを旅にしあれ②ばの葉に盛る（万葉集）

①（　　　）　　②（　　　）

ア　仮定条件　　　　　　　イ　確定条件・原因理由

ウ　確定条件・偶然条件　　エ　確定条件・恒常条件

問４　次の（　）内の語を、文脈に合わせて適当な活用形にして答えよ。

１　上下貴賤を選ばず、善き歌（あり）ば賞すべきなり。（排蘆小船）

（　　　　　）

２　たびたびしどけなき事（あり）ば、重く戒めんとて召すなりけり。（宇治拾遺物語）

（　　　　　）

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　四日。風吹けば、えいで立たず。（土佐日記）

（　　　　　　　　　　　）

２　わが弓の力は、あらばふと射殺して、首の玉は取りてむ。（竹取物語）

（　　　　　　　　　　　　　）

３　また石山にりたれば、夜もすがら雨ぞいみじく降る。（更級日記）

（　　　　　　　　　　　）

【探究】発展的に考えてみよう

問６　上六大夫の考え方は、さまざまなことを想定した立派なものであると言えるが、この後むつるが上六大夫に反論したとすれば、どのようなことを言うだろうか、考えて書いてみよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

① 　ア＝完了・連用　イ＝完了・連体　ウ＝推量・終止　エ＝打消・已然

②　ｄ

③　Ａ・Ｃ・Ｆ

問１　１＝やはり　２＝このように

問２　１＝エ　２＝イ

問３　１＝ウ　２＝ア　３　①＝エ　②＝イ

問４　１＝あら　２＝あれ

問５　１＝風が吹くので　２＝もし竜がいるならば　３＝籠ったところ

問６　観点　遠くなればなるほど、鳥を射ること自体がどんどん難しくなることや、水に濡れて少し価値の下がった羽でも、手に入るだけよいことなど、上六大夫に反論できていること。

【現代語訳】

問２　１　だからといって、（あれこれ）ためらわず自害するようなのも残念だ。

２　どうして（私を）このようにいやな人間だとお思いになってよいだろうか、いやそう思ってはいけない。

問３　１　音羽山を今朝越えて来ると、ほととぎすが梢のはるか向こうで今鳴いていることだ。

２　もし悪人のまねだといって人を殺すならば、（それは）悪人である。

３　家にいるといつも竹の食器に盛る飯を、（今は）旅先にいるので椎の葉に盛る。

問４　１　（身分の）上下や貴賤を問わず、よい歌があれば賞賛すべきである。

２　度々不始末があるので、重く罰しようとして呼び出したのであった。

問５　１　四日。風が吹くので、出発できない。

２　私の弓の力は、もし竜がいるならばふっと射殺して、首の玉は取ってしまおう（というほどだ）。

３　また石山に籠ったところ、一晩中雨が激しく降る。